

めぐみイエス・キリスト教会

2020年2月23日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第495号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年2月23日 第四主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん

◎礼拝プログラム

- 【前奏祈祷】
- 【賛美Ⅰ】 新聖歌265「世人の咎の為に」 p. 416
- 【交読文】 No.50 イザヤ書第53章 p. 919
- 【賛美Ⅱ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336
- 【使徒信条】
- 【主の祈り】
- 【先週説教】
- 【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.17 「父なる神の愛」
- 【聖書朗読】 ヨハネの福音書21章24節～25節(新約p. 230)
- 【祈 禱】
- 【説 教】 《証しし書いた者とは?》 鈴木 竜実 牧師
- 【聖 餐 式】
- 【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236
- 【平和祈り】
- 【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85
- 【祝禱後奏】

◎本日の聖書箇所【ヨハネの福音書21章24節～25節】(新約p.230)

21:24 これらのことについて証しし、これらのことを書いた者は、その弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。

21:25 イエスが行われたことは、他にもたくさんある。その一つ一つを書き記すなら、世界もその書かれた書物を収められないと私は思う。

●ポイント1. 長老ヨハネの手紙から

※ヨハネの手紙第一1章1節～5節「いのちの言葉」(新約p.478上段)

1:1初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じつと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちの言葉について。

1:2 このいのちが現れました。御父と共にあり、私たちに現れたこの永遠のいのちを、私たちは見たので証して、あなたがたに伝えます。

1:3 私たちが見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えます。あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。

1:4 これらのことを書き送るのは、私たちの喜びが満ち溢れるためです。

1:5 私たちがキリストから聞き、あなたがたに伝える使信は、神は光であり、神には闇が全くないということです。

●ポイント2. ヨハネの福音書における最初の証しとは？

※ヨハネの福音書1章14節「言葉は人となって」 (新約p.175下段)

1:14 言葉は人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

●ポイント3. 初めての主との出会い？そしてゴルゴタの丘において？

※ヨハネの福音書1章35節～39節「ベタニヤにおいて」(新約p.177上段)

1:35 その翌日、ヨハネは再び二人の弟子と共に立っていた。

1:36 そしてイエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の子羊」と言った。

1:37 二人の弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。

1:38 イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て言われた。「あなたがたは何を求めているのですか。」彼らは言った。「ラビ(訳すと、先生)、どこにお泊まりですか。」

1:39 イエスは彼らに言われた。「来なさい。そうすれば分かります。」そこで、彼らについて行って、イエスが泊まっておられる所を見た。そしてその日、イエスのもとに留まった。時はおよそ第十の時であった。

※ヨハネの福音書19章25節～35節「主の十字架」(新約p.226上段最初)

◎先週のメッセージの概要【主よ、この人はどうですか？】

《ガリラヤ湖畔において、主イエス様と共に「朝の食事」をした弟子たちはシモン・ペテロの家に向かいます。イエス様の横にはペテロが歩いています。するとヨハネがすぐ後ろをついて来ます。ペテロは足を止め、振り向いて、イエス様に質問します。「主よ、この人はどうなのですか」

ここでヨハネは、最後の晩餐の場面に言及しています。イエス様の右側には、「主の愛された弟子」ヨハネが、そして左側にはイスカリオテのユダがいました。そしてペテロは、末席に座らせられていたこととなります。

実は、ゼベダイの子ヤコブとヨハネを除いた十二使徒に取って、面白くない事がありました。それは、「過越の祭」に巡礼していた時の事です。ゼベダイの息子たちの母が、息子たちとイエスの所に来てひれ伏して、「私のこの二人の息子があなたの御国で、一人はあなたの右に、一人は左に座れるように、お言葉を下さい。」と願った事があったのです。主は、「私の右と左に座ることは、私が許すことではありません。私の父によって備えられた人たちに与えられるのです。」と答えられました。他の十人はこれを聞いて、この二人の兄弟に腹を立てたのです。

今回ペテロがイエス様に質問した内容の中には、この二つの場面の出来事が伏線となっています。「主よ、この人はどうなのですか」「私が来るときまで彼が生きるように、私が望んだとしても、あなたに何の関わりがありますか。あなたは、私に従いなさい。」

これがイエス様のお答えです。私たちは、どうしても他人と比較してしまう者なのです。この葛藤に対して、パウロはこのように勧めています。『御霊は、み心のままに、一人ひとりそれぞれに賜物を分け与えて下さるのです。丁度からだの一つでも、多くの部分があり、からだの部分が多くても、一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。』と。私たちがイエス様に対してするべきことは一つです。それは従うことなのです。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は、3月1日(日)です。通常通り行ないます。また2月26日(水)の「聖書の学びと祈り会」は、都合によりお休みします。次回は、3月4日(水)となります。